横浜いずみ台病院　ニュースペーパー

2015年6月10日 発行

IZUMIDAI NEWS

6月の特集記事

口腔がん・口内炎の話

6月号

横浜いずみ台病院 歯科診療室より

当院、歯科診療室では、一般的な歯科医院で行われるような虫歯治療や歯周病治療の他に、歯列矯正、お子さんの虫歯予防管理、インプラントなどの口腔外科領域の小手術なども行っております。

今回は、皆さんが気になることのひとつ、お口の中のガン、そして口内炎についての特集です。

口腔がんってなんだろう？

まず、『口腔』という言葉、最近は介護領域で『口腔ケア』という言葉でなじみがあるかもしれません。口腔とは唇を含む口の中全体のことです。

口腔領域にできるがんのことを総称して口腔がんと呼びます。口腔がんの中には、舌がん（ぜつがん）、舌と歯ぐきの間にできる口腔底がん（こうくていがん）歯肉がん（しにくがん）、頬粘膜がん（きょうねんまくがん）、上あごにできる硬口蓋がん（こうこうがいがん）、口唇がん（こうしんがん）があります。

口唇がんは日本人には少なく、口腔がんの大部分が舌がんで、口腔底がん、歯肉がんの順で多くみられます。

多くは口腔内の痛みです。口腔底では口内炎と間違えられることが多く歯肉がんでは、初期にはしみたり、違和感がでます。

初期のうちは、なかなか気付きにくいものです。

進行すると痛みが著しくなり、潰瘍や腫瘤を形成します。また、あごの周囲や歯肉がはれてきたりします。

口腔がんに進行する病変には、おもに2つあります。

- 白板症（はくばんしょう）
  口の中の粘膜が厚くなり、白く見える病変です。6～10%が「がん」に進行すると言われています。
- 紅板症（こうばんしょう）
  口の中の粘膜が薄くなり、赤く見える病変です。50%が「がん」に進行すると言われています。

どちらも舌だけでなく、口の中の粘膜全てにできます。1か月に1度は口の中をチェックしましょう。歯科での定期検診時に初期の口腔がんを見つけるケースもあります。口腔がんは、早期発見すれば95%以上の確率で治ります。

口内炎のはなし

次に、皆さんになじみのある『口内炎』のお話しです。

口内炎には様々な種類があります。

原因別には、疲労や免疫力の低下が原因と考えられる「アフタ性口内炎」、ウイルスや細菌の増殖が原因の「ウイルス性口内炎」、物理的刺激によって起こる「カタル性口内炎」、カンジダ菌の増殖によって起こる「口腔カンジダ症」などがあげられます。

口内炎の塗り薬の種類と効果

ステロイド系の塗り薬

免疫を抑制し、痛みを和らげる働きがあります。口内炎が痛くて食事ができないような場合に、とりあえず痛みを抑えて、体力が低下することを防ぐために処方されます。細菌の繁殖を抑えることはできないので、まず殺菌成分入りのうがい薬や洗口液でうがいしてから使用するのがおすすめです。

その他の殺菌・消炎成分入りの塗り薬

この種類の大半が市販薬です。殺菌効果は期待できますが、塗った場所だけの局所的な効果になりがちなので、やはり殺菌成分入りのうがい薬や洗口液でうがいしてから使用することをおすすめします。

口内炎の飲み薬とは？　その効果とは？

口内炎の飲み薬は、大半がビタミン B2 を中心としたビタミン製剤です。これは、ビタミン B2 欠乏症で口内炎ができることが研究で知られているためです。よって「ビタミン B2 を主としたビタミン不足で口内炎ができている人」には有効です。

うがい薬・洗口液（せんこうえき）を使う際のポイント

殺菌成分入りのうがい薬や洗口液でブクブクうがいをして細菌の繁殖を抑制することは、口内炎の予防にも治療にも有効です。うがいは、塗り薬の前に行うのがおすすめです。ただし、傷がある場合、殺菌成分が細胞にダメージを与え、傷の修復を遅らせるので、うがい薬や洗口液でブクブクうがいした後に水でうがいすることをおすすめします。

外来担当医表　（平成２７年６月１日より）

	月	火	水	木	金	土
午前１診	那須	井上	飯澤	井上	那須	渡部
午前２診	丸岡	那須	保坂	飯澤	渡部	丸岡
午前３診	藤山（整外）	岡本（10:30～）	須藤（専・心）	－	－	－
午後１診	渡部	渡部	岡本	丸岡	井上	－
午後２診	－	飯澤	渡部	－	佐藤（専・消）	－
午後３診	藤山（整外）	－	須藤（専・心）	－	－	

お知らせ

院内に掲示させていただきました通り、６月より金曜午後に佐藤医師による消化器外来が始まりました。

左記の担当医表もご確認ください。